

○課題文について

田中真知氏による「対話の空間をつくるために」（『風をとおすレッスン 人と人のあいだ』 創元社 2023年 所収）を一部改変して使用したものである。この文章では、会話（conversation）や議論（discussion）との比較を通して、対話（dialogue）とは何かについて述べられている。さらに、対話的姿勢や対話的空間をつくることの重要性についても言及がなされている。

○設問1 傍線部アで、筆者は「対話は、むしろとぎれたり、隙間があいたりするところからはじまる」と述べていますが、それはどのようなことですか。課題文に即して、200字以内で説明しなさい。

【出題意図と評価のポイント】

課題文を正確に読み取り、それに基づいて文章を構成できるかを問う設問である。「対話は、むしろとぎれたり、隙間があいたりするところからはじまる」という傍線部の意味を、本文中の言葉から捉えて、精度の高い文章で記述できていた解答には、高い評価を与えた。

【講評】

解答は概ね出題意図を踏まえたものであったが、課題文中に散在する「対話とは何か」に関する筆者の記述を十分に集約できていないものや、文章の構成力に欠けるものも散見された。

○設問2 傍線部イで、筆者は「対話的空間をつくるのは、けっしてかんたんではない」と述べていますが、あなたは「対話的空間をつくる」には何が重要だと考えますか。課題文を踏まえながら、自分の体験や見聞を交えて800字以内で述べなさい。

【出題意図と評価のポイント】

筆者の主張を踏まえ、適切な事例を挙げつつ、論旨の通った文章で記述しているかを問う設問である。「『対話的空間をつくる』には何が重要だと考えますか」という問いに対し、自身の体験や見聞を事例として用いながら、自らの考えを論理的かつ説得力をもって述べた解答には、高い評価を与えた。

【講評】

多くの解答では、自身の体験や見聞を挙げながら、自らの考えについて適切に述べられていたが、課題文中の筆者の主張をなぞるにとどまるものや、課題文における「対話」や「対話的空間」の定義と整合しない体験・見聞が挙げられているものも散見された。